

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700172		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター下上津役		
所在地	福岡県北九州市八幡西区下上津役二丁目11番21号		
自己評価作成日	平成26年6月21日	評価結果確定日	平成26年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

バス通りから一筋中に入り、静かな住宅地の中にあり、川沿いの散歩コースは、毎年、桜の花のトンネルが見事で楽しみの一つです。地域との交流を大切にし町内会の行事に参加する等により入居者様への理解を深めていただき地域と共に高齢者を支えていくことが出来るグループホームを目指しています。それぞれの今までの生活暦を大切に、生活リハビリを中心に現有能力を出来るだけ最大限に発揮できるよう支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年8月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニチイケアセンター下上津役」は、当初の開設から十周年を迎える単独型の2ユニットグループホームである。母体は全国規模で展開する企業であり、介護事業全般と関連の養成機関も運営されており、採用や育成などにも力を入れている。4月からは共用型のデイサービスも始め、送迎や行事などで外出の機会も増えた。地域との交流も積極的に進めており、十周年記念として、敬老会と一緒に式典を企画し、近隣住民や、行政なども招いて作品展示などを行う予定である。日常も入居者に役割を持ってもらい、掃除、洗濯、食事作りなど生活リハに取り組んでおり、リビングには仕事の達成状況がシールで貼られて、それぞれが競い合って意欲向上にも役立っている。調査時も朝の体操や洗濯物取り込みなど、時間をかけてしっかりと取り組まれていた。開設時から入居されている方もいるが、元気に過ごされており、グループホームらしい、共同生活が営まれる明るく元気な事業所であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりの生活質を尊重しありのままの姿で生活できるよう支援すると共に、地域との交流をより一層深め高齢者をささえていけるグループホームを目指します。	玄関と事務所に理念が掲示され、朝礼時に法人理念を唱和している。法人全体の理念とスタッフで作ったグループホーム独自の理念があり、それらを元にして地域交流にも取り組んでいる。ミーティングの時などにも振り返り、日ごろも理念を元にした基本姿勢や行動をケアにつなげている。	法人理念を毎日朝礼で唱和することで、よく共有されているが、具体的な考え方や行動は独自理念によく表されているので、独自理念もあわせて唱和などをすることで、浸透につなげてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入することから始まり、地域の季節の行事、清掃活動、防災訓練等に参加して交流を深めている。また毎月見学会を開催しグループホームへの理解を深めてもらっている。	昨年より地域交流をさらに進めており、近隣の子供達とも挨拶を交わし、気軽に立ち寄ってくれたり、一緒に花火も楽しんだ。町内会行事への参加も多く、敬老会やクリスマス会には地域も招き、毎月事業所の見学会を催して、行政や近隣の方も招待している。地域情報も、回覧板を受けて、入居者と一緒に回覧、伝達をして近隣の住民と交流を深めている。	近くの保育園との交流を計画中だが、一歩踏み込んで幼稚園や小学校との交流なども実現につながることを期待される。また、入居者の作品を市民センターに展示する、文化祭のような取組なども検討されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する相談や小中学校のPTA警察署と連携し、子供110番として活動している。町内会長さん民生委員さんの運営推進会議のご案内、季節の行事の参加の案内をしている。今年からは保育園との交流も計画		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し状況報告や勉強会などを開催し参加者からの意見を頂き実践に活かすようにしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、地域包括、民生委員、入居者、家族なども参加されている。家族には全員に案内しており、取組の報告や、行事案内などを行い、見学会との同日開催をすることもあった。リビングで会議することで、入居者が気軽に参加することもあり、家族には案内と一緒に議事録も送付している。	入居者、家族の参加は多いが、地域や行政の参加が少ないので、参加者を増やす取組として、議事録や案内の手渡しや、他事業所との相互参加などを検討されてはどうか。また、提携医や関係機関と協力したミニ講座や、県の出前講座なども絡めて開催することも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに相談したり、運営推進会議に参加していただき意見を聞いている。空室状況の問い合わせを良く受けたり空室などの状況を報告している。	昨年より行政が中心となって、地域のグループホームの連絡協議会も組織され、接する機会も増えた。地域包括とは連絡や訪問機会も多く、相談も易い。市や区などの行政との連絡は本部からすることが主で、事業所が直接関わることは少ない。毎月発行している「ほほえみ新聞」は送付して、近況を伝えている。	今は「ほほえみ新聞」を送付して近況を伝えているが、運営推進会議の案内や議事録とともに持参して直接訪問することで、接触する機会につなげてみてはどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を活用、毎月、チェックリスト等を用い確認し問題点が有れば改善策を検討している。研修には参加しスタッフにおろし身体拘束0のケアに取り組んでいる。	委員会が組織されており、委員を中心に日頃のケアやヒヤリハット、スピーチロックなどを振り返ってチェック、指導を行っている。玄関の施錠もなく自由に外出ができ、付き添いや見守りで対応している。以前の離設から、玄関のセンサーチャイムの確認を徹底するようにしており、今はない。いかなる拘束もしない方針で、外部研修や伝達なども行っている。	

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、勉強会を開催している。報告、連絡、相談の徹底をし問題があればその都度、検討し、見ぬごしが無いよう徹底する		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加しスタッフ全員に落とし込みをして制度の理解をしている。	市主催のセミナーには職員が持ち回りで毎年参加し、事業所内での伝達も行っている。今までに権利擁護の精度利用をされた方はいなかったが、相談に乗ったことはあり、一般的な制度の理解はしており、研修資料やパンフレットは説明用にも保管されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一つ一つ確認して、理解していたくように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。苦情に関するフローを掲示している。毎年、顧客満足度のアンケート調査を行い、その結果をふまえて改善している。	毎年、本社から家族に対してのアンケート調査があり、集計したものがフィードバックされ、挙げられた意見の改善にも取り組み、運営推進会議でも報告されている。ユニットごとと、事業所全体からのおたよりも毎月発行され、状況報告や行事案内なども非常にこまめにされている。取組を報告していくことで家族も協力的になり、満足度の向上にもつながっていた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を開き、意見を聞いている。また個人的にも相談しやすい環境を普段から心掛けている	毎月の全体会議には原則的に全職員が参加して話し合っており、最近では業務の流れや休み時間取得などの改善につながった。相談事なども日頃からし易く、個別面談を年に1回行い、そこで伝えることも出来る。ユニット単位でもカンファレンスを毎月行い、入居者の状況に関して話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、介護に関する考え方、勤務状態等の不満などが無いか確認、向上心を持って勤務できるよう助言している。またキャリアアップ制度や資格取得への助言指導をしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用マニュアルを参考にし不利益にならないよう配慮している。職員に関しては、それぞれの性格を理解し持っている能力や資格が十分に發揮できるよう、助言、指導している。	新入職員には教育担当がついて、1年間教育の支援を行い、また、法人規模が大きいことから、キャリアアップや異動などもあり、研修案内も多い。男女で10～60歳代まで幅広い職員がおり、それぞれの特技などを、手作業や料理に活かし、勉強会の担当も毎月持ち回って役割をもたせている。シフト調整や休憩時間なども相互に協力して働きやすい環境につなげている。	

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の尊厳と自立を念頭に置きセミナーの参加や拠点内での勉強会を行っている。入居者様の笑顔が毎日見られ、ここに居て良かったと思って頂ける施設を目指し指導しています。	市が主催する人権関連のセミナーに参加したり、事業所単体での人権学習も行っている。年間の研修計画にも組み込まれ、現在は市の人権団体からDVDを借りており、今後の人権学習につなげていく予定である。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時、採用時研修を必ず受講し、その後、経過を踏まえテクニカル研修を行うようにしている。また外部研修は職員のスキルに添った研修に参加するよう年間の計画を立てている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会に参加することで他事業者との交流が図れるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に本人との面談とセンター方式を使い生活暦を知ることやイベントのご案内をし参加して頂き馴染みの関係を早く作れるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧や申し込み込みを頂いた際はもちろんですが、毎月連絡を取り様子を伺い困っている事などをお聞きし入居前からも関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のご要望や本人との会話、行動の中から、またセンター方式を用い必要とする支援を見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の年を根本に置き、お客様の生活暦を大事にし、個々の状態に合わせた接し方をしている。また出社したら必ずお客様全員と会話するようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご様子を報告したり、ケアプランの作成時にはご要望をお聞きしたりご家族の支援もプランの中に反映している。また変化があった時は必ず相談し対応している。		

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援で入居前からの美容室の利用や病院への受診をして頂いている。お友達やご家族への季節の便りの返事などを一緒に作成している。また入居の際には大切にされていた物馴染みの品を持参して貰うように声かけしている。	家族にも協力してもらって馴染みの美容室や病院などへの外出支援を行っており、個別ケアによっても墓参りや、趣味の花の展示会に行ったり、外食に連れ出したりもしている。家族以外にも友人や昔の習い事の知人などが訪れることもあり、手紙の返事を書く手伝いも行う。馴染みの所に行くことで意欲の啓発にもつながっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を尊重し、得意なことを活かせるよう生活リハビリを中心に役割分担をし共に生活をし共有した時間を過ごせるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設にご入居の場合は面会に伺い状況を確認させてもたっている。ご家族からも入居さきの状況や不満など相談を受けることもある。又入居のご紹介も頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用したり本人との雑談の中から思いや希望を明確にしカンファレンスで検討し実現できるようにしている。また職員全員が統一した対応が出来るようにしている。	アセスメントはセンター方式の一部を全員に活用しており、入居時には家族に直接書いてもらって情報を引き出している。担当職員を中心に、ケアマネジャーと管理者が関わって情報を補完していき、日頃のちょっとした会話などからも本人の意向を読み取っている。	認定更新時などにアセスメントを取り直したり、情報の見直しを行うことで、直近の情報が反映されていくことが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族に協力して頂きセンター方式でこれまでの生活歴を把握している。またご本人との会話の中からそれとなく引き出している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ないことシートを用いて現有能力を最大限に発揮できるよう支援している。又定期的に見直したり状況が変わることにカンファレンスを開催し把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開きモニタリングを通じて現状を把握しケアプランに活かしている。カンファレンスにご家族の参加の声かけはしているが参加できない時はご意見を伺って後に報告は行っている。	職員全員が参加するカンファレンスを毎月開き、職員が持ち回りで中心になって話し合っている。モニタリングはスタッフが1,2名を担当し、ケアプランは各ユニットの作成担当が作って随時の見直しや半年の更新を行っている。プラン目標の実施状況も日々の介護記録に落とし込まれ、見直しと情報共有につなげている。	見直しの際の担当者会議には家族からの意見照会も行っているが、認定更新時などは直接参加をしてもらったり、リハビリなど他職種からの意見照会も行って、より発展的なプラン作成につなげてみてはどうだろうか。

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日々実践の記録や今までなかった発言や行動の記録から情報をスタッフが共有し必要に応じてプランの見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるようスタッフのシフトを変更し出勤人数を多くする事で外出や行事の充実を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、集団清掃活動の参加など可能な限り参加している。また今年から保育園との交流を計画している。(盆踊り、クリスマス会等)		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、家族、かかりつけ医と連携を取りながら心身の状況の把握に努めている。又スタッフ全員がお客様の状況を把握しかかりつけ医に報告できるようにしている。	希望する病院を選べるが、事業所の提携医の場合は月2回の往診があり、他科受診には家族に支援してもらって通院してもらっている。家族支援の場合は事業所から情報提供し、必要な際には病院と連携して情報共有している。訪問看護との連携もあり、週2回訪問され健康管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており1週間に1度来て貰っている。問題がある時は相談したり、処置をして貰っている。24時間連絡可能となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と連携を取り早期退院に向けて調整するように心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の基本的な指針は説明している。ご本人の状況を踏まえたうえで医師やご家族と検討している。ターミナルケアの場合は医師から指導を受けスタッフが情報を共有し看取りプランに副って統一したケアを提供している。	提携医も協力的で、24時間の連絡体制もあることで、過去に何例か看取りをしたこともあり、希望があれば重度な医療を必要としない範囲で出来る限りの支援を行う方針である。契約時に説明し、了承を得た上で、看取りの際には提携医と勉強会を行い、看取りプランも作成しており、スタッフの経験も積まれている。	

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度、消防署による救急救命指導を受けている。入社時には必ず個人的に指導を行い対応できるようにしている。定期的に勉強会を開催し緊急時の対応を学びスタッフ全員が対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に4回消防署の指導の下、防災訓練や自主防災訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し地域の支援もお願いしている。それぞれの防災マニュアル設置している。	年4回の訓練があり、夜間想定訓練を基本として内2回は消防署立会で行う。地域住民にも呼びかけをしているが、まだ参加には至っていない。事業所内で防災委員会も組織し、避難行動を共有している。備蓄物も完備され、スプリンクラーなどの防災設備も整えられていた。	地域防災訓練へ参加し、事業所の訓練への呼びかけも行われているが、今後も引き続き、近隣の家族などから始めて、訓練参加や災害時協力の呼びかけなどを行ってはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員が、定期的にスピーチロックのアンケートを参考にし勉強会を行い良いことばかけ対応を参考にし工夫、検討している。又ポスターを製作し常に意識付けをし高齢者の尊厳を守るよう努力している	スピーチロックに関してのポスターを委員会で作成し、言葉かけなどの啓発を行っている。相手を尊重して、決めつけずに自分で選択してもらうような働きかけをしたり、自主性をもってもらうように心掛けている。日頃何かあるときはその都度呼びかけ方などを注意する。個人情報についても本部から理解度テストがあり、写真利用なども同意を得たものに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表出できるよう日頃からの馴染みの関係作りを心がけている。職員主体にならないよう声かけに工夫し自己決定が出来るようサポートします。出来ない方には二者選択の方法を取っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間の関係で起床時間や就寝時間はある程度は決まっているが1日をご自分のペースで過ごせるよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関してはご自分で決めていただいているが外出時は余りちぐはぐにならないよう助言はしている。レクリエーションの中にハンドマッサージ等も入れたり訪問理美容にてご自分の希望のヘアスタイルが出来るよう支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に準備や片付けが出来るようにしている。1週間に1度昼食作りを全員でしている。時折希望に沿った出前を取ったり、パンバイキングを行い食事を楽しんでいる。又年に2回外食レクリエーションも行っている。	メニュー作成、買い物、調理も職員が持ち回りで担当して事業所内で行っており、買い物には入居者と一緒に行くこともある。下ごしらえや調理、片付けなどもできることは手伝ってもらい、職員も交替で同じものを一緒に食べている。感想は話の中で聞き取って反映させ、誕生日の時には食べたいものを提供して、パンバイキングなどで日々の食事にも変化を持たせて楽しんでもらっている。	

H26自己・外部評価表(ニチケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量をチェックし充分摂取できるよう時間ごとの提供や個々に合わせた工夫支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせ仕上げ磨きを行っている。又訪問歯科の指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にセンター方式にて排泄パターンの把握をし時間ごとのトイレ誘導にて不必要なオムツ使用はしていない。羞恥心に配慮した言葉かけや誘導等を支援している。	全員分の排泄チェック表があり、それぞれの介護記録に1日の排泄量や状態を記録している。日中は基本的にトイレ誘導し、夜間のみオムツ利用の方もいる。介助により状態が改善し、パット利用が減ったり、布パンツに変わった方もいる。日頃から状況や体調を見極め、適切なパットの利用や支援を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会やカンファを行い対応している。水分量の確保や植物繊維の多い食材の提供、活動性を高める支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間はあるが、好きな時間に入れるようなるべく調整はしている。又安全に配慮して個々に副った対応をしている。季節の行事や入浴剤などでも楽しんでもらっている。	浴室内には手すりも多く、浴槽にバスタブが付属しており、湯船への移乗もし易い。トイレと脱衣場もつながっており、スムーズな移動も出来る。基本的に入浴は1日おきだが、毎日入る方もおり、時間は11~16時が多いがその日の様子で夜でも介助することもある。拒むことがあっても、仲の良い2人で入ったり、うまく働きかけて入浴を促している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に副って昼間の休憩時間を設けている。また昼間の活同性をあげることで心地よい睡眠が取れるようにしている。特に消灯時間は決めていなくテレビを楽しまれて休まれている。その際は音量に気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理日誌にて申し送りを周知徹底している。服薬介助方法はマニュアルを用いて統一、指導している。また薬局の居宅管理指導を受けていて勉強会も開催している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる事を見つけ日課や役割としている。毎日の散歩やレクリエーション、外出レク、外食等で気分転換を図っている。また趣味を活かしてお茶会や生花等も楽しんでいる。		

H26自己・外部評価表(ニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で年に2回バスハイクを楽しんでいる。個人としてはご家族の支援で外出や外食を楽しまれている。個々に合わせた買い物支援も計画書の中に位置づけている。	昨年から社用車も手配されて、こまめな外出なども計画しやすくなった。近隣の環境もよく、散歩なども日常的に行っている。全体のバスハイクでは国立博物館や岡垣町に行っており、それ以外にも季節の花見や少人数での外出も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクリエーションで買い物の時間を設けている。その際は能力に応じて支援し、1対1で対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば何時でも電話出来るようにしている。季節の挨拶文やプレゼントのお礼状等も書いて貰うよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるように、毎月皆で壁紙を作成している。環境美化委員が中心に環境整備に努め花を飾ったり作品を展示したりしている。適度な明るさ温度を保ち皆様が集える場所となっている。	玄関横には特徴をとらえた職員の似顔絵と自己紹介が貼られ、親しみがある。廊下にも入居者の作品やレク、行事の写真などが飾られ、楽しい様子を感じ取れ、作品や写真はこまめに入れ替えることで飽きがこないように手を入れている。ユニットによっては入居者ごとの仕事や役割の達成をシールで飾り、意欲増加にも役立っていた。手作りの壁紙は季節感をもたらし、1階のウッドデッキにも季節折々の植物が育てられていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル以外にも椅子を置き好きなところで寛いで貰える様にしている。又ウッドデッキを利用し庭の花を眺め寛いだり夏の夜は花火を楽しんだりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安全、安心に生活できるようそれぞれにあった環境整備を配慮している。又入居時は使い慣れた物を持って来て頂くようお願いし寛げるお部屋作りを心がけている。	部屋の表札代わりに入居者の顔写真と手作りの作品が飾られ、部屋を間違えないように配慮されている。居室は廊下から段差なく入れる、フローリング調の床で、ベッドなどの家具はすべて持ち込みである。ポータブルトイレやエアーマットなどは必要であれば事業所で用意することも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い出来ることできない事を把握した上で安全に生活できるよう配慮している。又状態が変わった時はその都度検討、工夫している。		